

いわき市内における交通政策等に係るこれまでの取り組み～現行都市交通マスタープラン策定後（H16.1）～

参考資料 1

1. これまでにおこなわれた主な交通施策

I 公共交通を考える機会の提供

No.	事業名	事業概要	地区	期間		備考
				H16	R2	
1	金山地区における路線バス利用促進プロジェクト	地区住民へのバス利用意向調査及び利用促進の説明会の実施。バスカードを実際に利用してもらいモニタリング調査を実施。	勿来	H20～H22		バスカードの購入場所を増やしてほしい意向に対応し、市内セブンイレブンでのバスカードの販売がH22年4月から開始となった。
2	駅・イベント等での啓発活動	駅や市内外イベントにおいて、鉄道交通の利用促進に向けた啓発活動を実施している。また、茨城県や常磐線沿線自治体と連携した啓発活動も実施している。	市全域	H27～		
3	生徒や児童・保護者を対象とした公共交通利用への意識啓発	新高校生などを対象に公共交通の重要性や利用に向けた意識づけを図るため、周知用チラシなどを配布。また児童とその保護者を対象にしたバスの乗り方教室の開催や、路線バス車内での作品展示などを通してマイバス意識の醸成や利用促進を図る。	市全域	H29～		

II 公共交通を考え育む地域組織の設置

No.	事業名	事業概要	地区	期間		備考
				H16	R2	
1	いわき市鉄道交通を応援する会	鉄道交通の必要性について理解を深め、利便性向上や機能の強化、市民・事業者による利用拡大について、全市的に機運の醸成を図り、将来に向けて持続可能な公共交通として守り育てていくことを目的に“いわき市鉄道交通を応援する会”を設立。	市全域	H26～		市民や市内団体と一体となって、鉄道の利用促進に向けた活動を行う「いわき市鉄道交通サポーター”鉄援隊”」の募集も実施。

III 移動需要に応じた公共交通の確保

No.	事業名	事業概要	地区	期間		備考
				H16	R2	
1	常磐地区モビリティ確保社会実験	バスとタクシーの長所の組み合わせと、地域全体で支える仕組みが成立するかを検証するため、「おはようバス」及び「あいのりタクシー」の運行実験を実施。	常磐	H17		予約の煩わしさを軽減する方法や採算性と日常的な利用を可能にする運賃設定等が課題。
2	「（仮称）深夜型お帰りデマンドバス」社会実験	運行ルートとなる「自由ヶ丘」「郷ヶ丘」「中央台」各地区の世帯を対象にアンケート調査を実施。	平	H18		平成19年4月より本格運行するも、利用者減少に伴い、平成24年3月30日運行終了。
3	三和町における新交通システム構築に関する調査検討事業	地区における現状の調査、先行事例の視察、高齢者に対する地区別ヒアリングの実施。	三和	H18～H19		本格運行に向け、システムの住民周知と意向把握、運転手の登録意向把握、意向調査分析によるシステム決定、協議会の設置、会員及び輸送者の募集、研修会の実施、国への登録申請等も検討。

No.	事業名	事業概要	地区	期間		備考
				H16	R2	
4	田人地区の移動手段の確保による地域づくり検討事業	ヒアリング調査、利用意向調査等を実施したのち、田人地区におけるデマンド型乗合タクシー「たびと号」、「かいどまり号」（会員制）の実験運行。	田人		H18～H19	実験結果より「たびと号」について運行便数及び運行時間について調整を行い、本格運行を目指す。
5	安全・安心の地域送迎システム検討事業	小・中・高校生を対象にした通学実態に関するアンケート調査の実施。大野地区住民に対する日ごろの外出に関するアンケート調査の実施。通学送迎用乗合タクシー（予約なしの乗車便割り当て方式）「よつくらふれあい号」の実験運行。	大野		H18～H20	この実験結果では事業採算性が見込めないため、誰もが利用できるシステムとして再構築し、需要を増やす必要があると判断。
6	洋向台団地における地域交通の研究事業	団地周辺の公共交通の現状調査および交通アンケート調査の実施。	小名浜	H19		
7	三和ふれあい輸送実証試験運行事業	三和地区における過疎地有償ボランティア輸送（会員制）の実施。	三和	H19		
8	歩いて暮らせるまちづくりいわき地区社会実験	街なかの大型商業施設や商店街、駅、公共施設を結ぶ「まちなか巡回バス」の運行実験。	平	H19		生活者の視点に立った都市サービス等の充実、多様な主体の連携と運営体制の整備、持続可能な事業展開、多様な広報手段の効果的な活用といった観点に立った取り組みが求められる。
9	四倉・谷地線生活路線バスの代替交通システム検討	小・中学生の保護者および高校生以上の住民に対する公共交通利用意向と通学実態についての調査を実施。筒木原地区から久ノ浜駅を経由し、四ツ倉駅までを結ぶ乗合タクシー（会員制の予約方式）「アンモナイト号」の実証実験。	四倉		H19～H21	地域の目的を絞り込み、それに合わせた運行ルートや便数の見直しが必要であり、さらに本格運行に向け、持続的な実施主体を地域で組織する必要がある。
10	商店街活性化策と連携したいわき駅周辺循環バス利用促進事業	循環バス路線の沿線住民を対象としたアンケート調査の実施。バス事業者及び商店会員を対象としたヒアリング調査の実施。	平	H22		実現可能性について、東日本大震災の影響を鑑み、商店会員の実施体制が整った段階での実施とする。
11	被災沿岸域公共交通網再編事業（久之浜・大久地区公共交通実証運行）	津波被災地における移動需要に応えるとともに、津波被災により分断された地域コミュニティの継続・再生を図るため、乗合タクシーの新たな公共交通の新設を目的に実証運行。	久之浜 大久		H27～H28	久之浜・大久地区において、定時定路線型及びデマンド型での実証を行ったが、利用者数及び収支率が低く、継続して運行を行うには、地域の方に利用してもらえる地域の実情に即した公共交通の構築に向け地域とともに取り組む。
12	次世代交通システムによる交通イノベーション推進事業費	「いわき市次世代交通システム研究会」の開催や先端技術を活用した実証など、各種取り組みを官民共創により推進するもの。 ○カーシェア ○グリーンスローモビリティの実証	小名浜 平		H30～	
13	共創型地域交通モデル事業	三和地区及び田人地区において、高齢者等の交通弱者の移動手段の確保を目的として、地元住民組織が主体となり、行政及び民間事業者の支援を得ながら、住民ボランティア輸送を行うもの。	三和 田人		H31～	今後も地域との意見交換を実施し、事業実施に伴う課題や新たなニーズを把握することに努め、地域が自立し、持続可能で地域の実情に合った交通システムの構築に向け地域とともに取り組む。

#### IV 利用しやすい公共交通環境の整備

No.	事業名	事業概要	地区	期間		備考
				H16	R2	
1	市内各駅での清掃活動	環境美化による市内駅の利便性向上及び利用促進に繋げることを目的に、清掃活動を実施。	市全域	H26～R1		これまで、湯本駅、泉駅、四ツ倉駅、植田駅、いわき駅、小川郷駅で実施。
2	さわやかトイレ・リフレッシュ事業	J R常磐線及びJ R磐越東線の市内駅に設置されているトイレの一部について、水洗洋式化や多目的トイレの設置を図るなど環境整備を行うことで、鉄道交通の利用促進による交流人口の拡大等に繋げることを目的に、駅前公衆トイレの整備を行う。	市全域	H27～R2		平成27年 久ノ浜駅 (JR施工) 平成28年 川前駅 平成29年～30年 赤井駅、末続駅 令和元年～2年 小川郷駅

#### V 商業・観光などとの連携と広域交流の促進

No.	事業名	事業概要	地区	期間		備考
				H16	R2	
1	まちなかいいきき・ネットワーク事業社会実験	街なかの大型商業施設や商店街、駅、公共施設を結ぶ「まちなか巡回バス」の運行実験。料金は1日100円 (乗車券発行)。	平	H20		様々な交流や連携によるネットワークの構築により、さらなる関係づくりの推進が重要である。
2	商業等との連携による地域交通システム検討事業	旧「四倉～玉山～上岡」バス路線沿線を中心とした大野地区における乗合タクシー (会員制の予約方式) 「よつくらふれあい号」の実験運行。協力店で買い物した際に、乗合タクシーの利用助成券 (100円分) を配布。	大野	H20～H21		利用者が非常に少ない結果となったため、「路線の一本化」と「運行便数の見直し」を検討すべきである。
3	サイクルツーリズムモデル事業	自転車の利用促進を図るため、市内各地でレンタサイクルを実施するもの。市内6箇所、合計27台のレンタルを行っている。	市全域	H31～		

#### VI その他の取り組み

No.	事業名	事業概要	地区	期間		備考
				H16	R2	
1	時差出勤導入調査・社会実験	時差出勤の導入可能性の検討及び社会実験による有効性の検証を目的とし、時差出勤の導入に対する意向調査及び社会実験の検討・実施をした。	好間	H16～H18		導入検討体制の構築し、一部部署における時差出勤の試行に取り組む。また民間事業所への導入促進を検討する。
2	E T Cの通勤割引制度を利用した都市内交通渋滞緩和策の事業	好間工業団地への通勤者に対して新たな通勤ルート提案の可能性検討。 ・好間工業団地通勤者へのアンケート調査 ・E T C装着モニターを選定し、アンケート調査 (報告書に記載なし)	好間	H18		

## 2. これまでにおこなわれた主な基盤整備

### 【ネットワーク形成】

事業名	対象路線・地区名	事業期間等	事業概要
主要幹線道路整備事業	高速自動車国道 常磐自動車道	平成27年3月全線供用	東京都練馬区(大泉JCT)～仙台市(富谷IC)間 L=約372km (福島県内約128km 市内約45km)
	高速自動車国道 磐越自動車道	平成9年10月全線供用	いわき市(いわきJCT)～新潟市(新潟中央IC)間 L=約213km (福島県内約152km・市内約26km)
	一般国道6号 常磐バイパス	平成30年3月全線開通(4車線化)	勿来町四沢～平下神谷間 L=27.7 km W=25.0m
	一般国道6号 久之浜バイパス	平成29年2月全線開通(暫定2車線)	四倉町字六丁目～久之浜町金ヶ沢間 L=6.0 km W=22.5m
	一般国道49号 平バイパス	平成29年3月全線開通	常磐上矢田町～好間町北好間間 L=7.7 km W=25.0m
	ふくしま復興再生道路 一般国道399号 戸渡2工区	平成23年度～令和元年度 令和元年7月供用開始	L=1,200m(内ﾄﾞﾙ768m) W=6.0(8.0)m
都市計画道路の整備	都市計画道路 内郷駅平線(南白土工区)	平成4年度～平成25年度 平成26年3月供用開始	事業箇所：平南白土～北白土地内 延長：L=654m 幅員：W=20～23m
	都市計画道路 新川町谷川瀬線	平成13年度～平成26年度 平成27年3月全線完成	事業箇所：平字新川町～平谷川瀬字仲山町地内 延長：L=652m(うち橋梁部 L=62m) 幅員：W=20m
	都市計画道路 山山水野谷町線	平成9年度～平成29年度 平成23年9月供用開始	事業箇所：常磐湯本町台山～常磐水野谷町竜ヶ沢地内 延長：L=1,530m(市施工：1,430m・県施工：100m) 幅員：W=20m
主要幹線道路整備事業	一般国道6号 勿来バイパス	着手後、概ね10年程度を目指す(H27年度事業着手)	勿来町四沢～北茨城市関本町関本中間 L=4.4km(L=2.5km(内ﾄﾞﾙ約840m)、茨城県内L=1.9km) W=11.0(17.25)m(4車線区間約400m)
	一般国道49号 北好間改良	着手後、概ね10年程度を目指す(平成23年度事業着手)	好間町北好間清水～好間町北好間字猪ノ鼻間 L=2.2km W=11.0m
	ふくしま復興再生道路 小名浜道路	2020年代初頭	泉町下川大剣～山田町塙 L=約8.3km W=7.0(13.5)m
	ふくしま復興再生道路 一般国道399号 十文字工区	平成23～2020年代初頭	L=6,220m(内ﾄﾞﾙ延長2,875m) W=6.0(7.5)m 道路改良
	ふくしま復興再生道路 主要地方道 小野富岡線	平成18年度～2020年代初頭	L=2,650m W=6.5(9.0)m 拡幅整備
	ふくしま復興再生道路 一般県道 吉間田滝根線	平成23年度～2020年代初頭	L=9,200m(市管内延長約1,800m) W=6.5～7.0(9.0～10.5)m 道路改築
主要幹線道路整備事業(県管理道路)	一般国道399号 平北目工区	平成17年度～2020年代初頭	L=330m W=6.0(12.0～16.0)m 拡幅整備
	主要地方道 いわき石川線 ①皿貝工区(遠野町) ②才鉢工区(田人町)	①平成18年度～令和2年度 ②平成23年度～2020年代初頭	①2工区 L=635m、3工区 L=937m W=6.5(11.0)m 拡幅整備 ②L=3,070m W=6.5(9.0)m 道路改築
	主要地方道 いわき上三坂小野線 ①和久工区(山田町) ②滝工区(遠野町)	①平成25年度～2020年代初頭 ②平成23年度～2020年代初頭	①L=1,500m W=7.0(11.5)m 拡幅整備 ②L=2,340m W=6.5(11.0)m 拡幅整備
	主要地方道 常磐勿来線 ①岩崎工区(常磐下湯谷町) ②迎工区(常磐関船町)	①平成19年度～2020年代初頭 ②平成27年度～2020年代初頭	①L=450m W=6.0(12.0)m 交差点改良・歩道整備 ②L=410m W=6.0(12.0)m 拡幅整備
幹線市道整備事業	馬場・寺前線(勿来地区)	平成25年度～令和2年度	国道6号常磐バイパスと国道289号との交差点に接続、沿岸域と内陸部とのアクセス強化や津波来襲時の沿岸から内陸への避難機能向上を図る。 延長 L=570m、幅員 W=10.0m(片側歩道)
	田之網・田戸線(久之浜地区)	平成18年度～令和4年度	国道6号久之浜バイパスからいわき四倉中核工業団地等へのアクセス確保、周辺地域の活性化支援と交通の円滑化・安全性の向上を図る。 延長 L=800m、幅員 W=7.5～10.0m(片側歩道)
	清水・空木線(小川地区)	平成29年度～令和6年度	通学路交通安全プログラムの危険箇所にも位置付けられる小川町の中心部の幹線市道を整備し、交通の円滑化及び安全性の向上を図る。 延長 L=280m、幅員 W=9.0m(片側歩道)
	搦槌小路・上柳生線(四倉地区)	令和2年度～令和6年度	平と四倉を結ぶ他、ワウセンターへのアクセス道路。狭小・急勾配・地すべり防止区域と危険な状況であることから、迂回路を整備し、安心・安全な通行の確保と地域間の利便性の向上を図る。 延長 L=423m、幅員 W=5.0m
	都市計画道路 搦槌小路幕ノ内線(旧城跡工区：R3～R9)	平成27年度～令和9年度(柳町工区：H27～R4) (旧城跡工区：R3～R9)	本路線の拡幅整備に併せ、歩道や自転車専用通行帯を設置するとともに、電線共同溝による無電柱化を進め、安全で円滑な交通の確保や、交流、連携の強化と良好な都市環境の創出を図る。 ・延長 L=980m【L=560m(柳町工区)、L=420m(旧城跡工区)】 ・幅員 W=14～20m

### 【拠点整備等】

事業名	地区名等	事業期間等	事業内容
いわき駅周辺再生拠点整備事業	いわき駅周辺	平成19年10月に南北自由通路 平成22年3月に南口駅前広場 平成28年3月に北口交通広場の供用開始	●南口駅前広場 面積：約12,400㎡(うちパステリアンデッキ2,200㎡) ・交通施設：バス乗降11台、タクシー乗降4台(待機30台) 自家用車5台、駐輪場(東)330台 ●南北自由通路 延長：80m 幅員：10m ●北口交通広場 面積：約4,250㎡(人工地盤) ・交通施設：バス乗降2台、タクシー乗降2台(待機10台)、自家用車乗降3台、駐輪場150台、下部駐車場60台 ●橋上駅 延床面積：約1,600㎡
重要港湾小名浜港整備事業(物流ターミナル部分)	小名浜港	平成20年から令和2年度まで	・東港地区国際物流ターミナルの整備により、従前以上の大型貨物船が入港可。貨物量増加。 ・東港地区：約52ha
小名浜港背後地における拠点整備事業	小名浜港後背地	平成23～30年度 平成23～28年度 平成26～30年度	●震災復興土地区画整理事業 施行面積：12.2ha ・鉄道貨物ターミナルの移転、都市計画道路や区画道路の整備 県庁舎の移転 ●津波復興拠点整備事業 施行面積：10.9ha ・パステリアンデッキや交通ターミナル、ポットパークの整備、国庁舎の移転など ●まちなか回遊性向上事業 ・L=約360m W=約6m ・港と既成市街地の導線整備(道路の一部拡幅、舗装の高質化、ポットパークの整備など)
震災復興土地区画整理事業	久之浜	平成24～30年度	施行区域：28.4ha 宅地整備：213区画
	薄磯	平成24～29年度	施行区域：37.0ha 宅地整備：185区画
	豊間	平成24～30年度	施行区域：55.9ha 宅地整備：349区画
	小浜	平成25～30年度	施行区域：3.8ha 宅地整備：32区画
	岩間	平成24～30年度	施行区域：12.5ha 宅地整備：59区画
いわき市医療センター整備事業		平成26年から平成30年度まで	・総合磐城共立病院の移転 ・災害時には、拠点病院となる設備を完備 ・総病床数：700
いわき駅並木通り地区第一種市街地再開発事業	いわき駅周辺	平成28～令和3年度	地権者が「市街地再開発組合」を設立し、「市街地再開発事業」による敷地の統合や施設建築物の共同化等の整備を行うことにより、土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図り、いわき駅周辺の更なる賑わいを創出するもの。
中心市街地活性化広場公園整備事業	(仮称) 磐城平城・城跡公園	平成29年度～令和3年度(予定)	「いわきを象徴する場所」、「歴史を語り継ぐ場所」、「いつでも誰でも楽しめる場所」として整備するとともに、公園の整備・管理・運営において、市民が積極的に参加することにより、継続的な賑わいの創出を目指す。 【主な公園施設】 ・園路広場(園路広場、展望デッキ、アポイント階段等)・修景施設(植栽(庭園)、白蛇堀等)・休養施設(四阿、野外卓、ベンチ等) ・教養施設(体験学習施設)・便施設(トイレ、駐車場等) ・管理施設(門、柵、サイン等)
四ツ倉駅跨線人道橋整備事業	四ツ倉駅跨線人道橋	令和2年度供用開始予定	安心安全な歩行環境実現に向け、バリアフリー機能を備えた歩行者用人道橋を整備。また新たな駅舎と西口改札を整備する。 跨線人道橋：W=約3m、L=約38m 交通広場A=約2800㎡ 道路拡幅W=約10m、L=約113m

これまでにおこなわれた主な基盤整備（ネットワーク形成等）

